

令和4年度第2回 静岡県地球温暖化防止県民会議 会議録（要旨）

1 日時・場所等

日時	令和5年2月9日(木) 14:00～15:25
場所	県庁別館9階第1特別会議室
出席者 職・氏名	<p>会長 静岡大学地域創造教育センター地域創造学環（敬称略） 教授 水谷 洋一</p> <p>委員 静岡大学サステナビリティセンター 教授 板倉 美奈子</p> <p>エネルギー管理指定工場連絡会静岡地区会 会長 佐野 佳洋</p> <p>（一社）静岡県LPガス協会 専務理事 鈴木 邦佳 静岡県ガス協会静岡ガス株式会社 グローバル・エネルギー本部 電力・環境事業部長 上木 敏</p> <p>（一社）静岡県環境資源協会 事務局長 井上 隆夫 （一社）静岡県経営者協会 専務理事 鈴木 良則 （公財）静岡県産業振興財団 事務局長 石田 豪志 （公社）静岡県産業廃棄物協会 専務理事 松浦 敏明 （一社）静岡県商工連合会 専務理事 窪田 賢一</p> <p>静岡県消費者団体連盟 会長 小林 昭子 静岡県生活衛生同業組合連合会 事務局長 植松 政人 （一社）静岡県地域女性団体連絡協議会 会長 岩崎 康江 静岡県中小企業団体中央会 事務局長 眞野 匡雄 静岡県農業協同組合中央会 専務理事 松本 早巳 （一社）静岡県バス協会 専務理事 堀内 哲郎 （一社）静岡県フロン回収事業協会 代表理事 鳥波 益男 （一社）日本自動車販売協会連合会静岡県支部 総務部次長 藤井 雅之</p> <p>（公財）浜松地域イノベーション推進機構 次世代自動車センター浜松センター長 望月 英二 中部電力株式会社静岡支店 支店長代理 平尾 正典 東京電力パワーグリッド株式会社静岡総支社 副総支社長 石田 晴美</p> <p>静岡県地球温暖化防止活動推進センター センター長 佐藤 博明 センター次長 服部 乃利子</p> <p>静岡市環境局環境創造課 主査 兼高 晶子 浜松市カーボンニュートラル推進事業本部 副主幹 内崎 哲</p>

	<p>静岡県暮らし・環境部長 高畑 英治 静岡県教育委員会教育政策課 政策企画班長 平山 裕久 (事務局)</p> <p>暮らし・環境部 山田 部長代理、環境局 杉本局長、環境政策課 清課長、新居課長代理、高塚地球環境班長、経済産業部産業革新 局エネルギー政策課 横井課長</p>
議題	<p>(1) 2020 年度 温室効果ガス排出状況 (2) 構成団体の活動報告</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度第2回静岡県地球温暖化防止県民会議 次第 ・ 座席表 ・ 出席者名簿 ・ 資料 1-1 2020 (令和2) 年度の温室効果ガス排出状況 (概要) ・ 資料 1-2 2020 (令和2) 年度の温室効果ガス排出状況 (詳細) ・ 資料 2-1 公益財団法人静岡県産業振興財団 ・ 資料 2-2 中部電力株式会社静岡支店 ・ 資料 2-3 静岡県地球温暖化防止活動推進センター ・ 資料 2-4 静岡大学 ・ 資料 2-5 静岡県の脱炭素社会実現関連の主要な事業 ・ 参考資料「第4次静岡県地球温暖化対策実行計画」管理指標

2 審議内容

(1) 2020 年度 温室効果ガス排出状況

事務局から資料1により説明した。

(質疑応答)

【森林吸収量】【ふじのくにエネルギー総合戦略】

(委員)

資料1-1のスライド11記載の森林吸収量の数値の根拠データがあれば教えて欲しい。また、温暖化対策の計画におけるふじのくにエネルギー総合戦略の関係や位置づけを教えて欲しい。

(事務局)

森林吸収量の内訳について林野庁から都道府県分として示されているこのデータが全てとなる。新規植林・再植林活動、森林減少活動、森林経営活動が吸収量カウントして認められたもので、森林経営活動を例にすると、間伐等で手を加えられたその生産活動による吸収量増加分を国が計上している。その上で林野庁が各都道府県に分配している。

(事務局)

地球温暖化対策実行計画とエネルギー総合戦略については、両計画とも同

じ方向を向いており、2050年カーボンニュートラル、2030年度温室効果ガス46.6%削減という共通の目標を目指している。その目標を目指し、エネルギー総合戦略は再生可能エネルギー等エネルギー政策の観点から計画を策定し、地球温暖化対策実行計画は温暖化防止の観点から計画を策定している。エネルギー総合戦略には4つの柱があるが、柱には再エネ導入も徹底した省エネもあり、互いに密接不可分で、切り口が異なるものとする。

(会長)

森林吸収量については、自然林ではなく人が管理した、人為的な森林がカウントされる。また、再エネ導入促進については別途計画と担当課があり、省エネやエネルギー転換の担当はくらし・環境部と、県の中で役割分担がされていると理解している。

(委員)

エネルギー総合戦略は地球温暖化防止のベースとなるものなので、県のエネルギー政策全般の中で温暖化防止がどういう位置付けになるのか、概念図のようなもので示してくれたほうが分かりやすいと思う。

森林吸収量については国のデータに基づいているのかと思うが、静岡市では実行委員会方式で森林アドプト計画が着実に進展しており、間伐によってCO₂をどれだけ吸収しているかを計算している。他の市町も類似のことをやっているのか教えて欲しい。県内での吸収量が多い森林経営がどう進んでおり、どういう状況にあるのか把握してほしい。

(事務局)

森林吸収量については県や市町の整備による吸収量積み上げによる算定が事実上難しいため、林野庁報告の数値としている。ただし、森林経営は吸収源対策として進める必要があるため、従来の森林整備面積の目標値は毎年度1万haだったが、地球温暖化対策実行計画の吸収量目標が新たに設定されたことから、県ビジョンの中の新たな成果指標として、毎年度11,490haに設定した。整備の実施状況の推移を見ると、2019年度10,144ha、2020年度10,314ha、2021年度11,116haと毎年確実に増え整備が進んでいる。

(会長)

再エネ導入も吸収源対策も温暖化対策と一体不可分のものであり、同じくらい詳しい報告をしてほしいとのことであった。次回の会議では気をつけるようにしたい。

【業務部門の二酸化炭素排出量】

(委員)

資料1-1のスライド6で、コロナという特殊事情を別にして、業務部門の二酸化炭素排出量が2013年度から大きく削減している要因が分かれば教えてほしい。

(事務局)

- ・2013年度には石炭の使用があったが、燃料転換が進んだことで2015、2016年度あたりが減少していると考えられる。それ以降は燃料の構成変化は見られず、省エネ対策により着実な減少が進んでいると分析している。

(会長)

- ・業務部門は、「業務その他部門」としてどこに分類していいかわからないものも含まれており、区分が変わるなど統計的な要因もあるが、エネルギー消費量が減少しているのは確か。新型コロナウイルス感染症の影響で減少するかどうか来年度の動向を確認したい。

(2) 構成団体の活動報告

- ア 公益財団法人 静岡県産業振興財団
- イ 中部電力株式会社静岡支店
- ウ 静岡県地球温暖化防止活動推進センター
- エ 静岡大学

各団体及び板倉委員から資料2(1～4)により取組報告があった。また、事務局から資料2-5により本県が本年度実施した脱炭素に関する主要事業について説明した。

(3) 閉会挨拶

静岡県くらし・環境部長